

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2771501158		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホームなごみ(1F)		
所在地	大阪府大阪市東成区中本3-17-1		
自己評価作成日	平成29年4月18日	評価結果市町村受理日	平成29年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2771501158-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2771501158-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年5月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家族の一員と思い入居者様との何気ない日々を過ごし、笑顔の絶えないホームを目指し、職員も長い方では10年以上も勤務して頂いています。常にどこかで笑い声が聞こえるホームです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該事業所では外出支援に力を入れており、個別や事業所全体での外出に積極的に取り組んでいます。盆踊りや桜の花見などの地域行事の他、馴染みの商店街や博物館、動物園等に出掛けたり、家族にも声を掛け地域の病院が主催するバス旅行に参加する等、外出する機会を多く作っています。食事は業者から献立と食材が届き日々手作りで提供しており、暦や行事に合わせた食事や旬の物、利用者の好みなどを取り入れ、新年会には鍋料理を企画するなど楽しみのある食事作りに取り組んでいます。また、職員は利用者により日々の変化のある暮らしを送ってもらうため、利用者にも手伝ってもらいながら喫茶をしたり、家族にも参加してもらい居酒屋を開くなど、利用者が楽しみながら過ごせるような支援に取り組んでいます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念と各フロアにおいても独自の理念を掲げています。	法人のグループホーム理念を基に職員や利用者で話し合い作成したユニット毎の理念をリビング等に掲示し、職員に意識付けを行っています。新入職時に理念に込められた思いを職員に説明し、毎月の全体会議で振り返りを行うことで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お散歩の時には、ご近所さんに積極的に声を掛けし、会話に努めている。可能な限り地域の行事には参加させて頂いています。(お花見、盆踊り、災害訓練等)	町会に加入し町会長から地域の情報を得て、盆踊りや桜の花見等の地域行事やふれあい喫茶に出掛けたり、敬老会の催し物に参加しています。近隣の公園で保育園児と待ち合わせ交流を図っています。将棋や小学生の紙芝居等のボランティアの来訪もあり地域との関わりが多く持てるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣での高齢者や気になる方々を見かけると率先して対応する様に、職員には指導しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃、入居者様に召し上がって頂いてる手作りおやつやお食事を試食して頂いたりして意見やアドバイス等頂き参考にさせて頂いています。	会議は家族や町会長、地域包括支援センター職員等の参加の下2か月に1度開催し、事業所の活動や状況を伝えたり、事故報告を行い意見交換をしています。地域の行事や外出先の情報等をもらい利用者と参加するなど、出された意見をサービスの向上に繋がるよう努めています。全家族に会議の案内と報告を行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	殆ど関わりは出来ていないのが実情	介護保険上の疑問点の確認や相談等、電話にて行い、事故報告については書類を郵送し行っています。行政から案内の届く研修には可能な限り参加し行政の担当者に関わりを持つよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	残念ながら、玄関施錠について解決出来ないが、その他の身体拘束はない。新入職もあり、内部研修も予定しております。	年1回身体拘束に関する法人内研修を職員代表が受講して資料を基に全職員に伝達をしています。言葉による制止等不適切な声掛けが見られた場合はその都度管理者やリーダーが注意し、職員間でも注意し合っています。玄関やフロア入口は施錠していますが、その必要性について検討すると共に外出希望がある場合は職員が付き添って外出し気分転換を図るよう努めています。	

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体チェック表を作り、常に入居者様の状態の変化に全スタッフが気づける様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者様にも数名、後見人制度を利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者自身に説明する機会はまれであるが、家族様に十分に見学して頂くと同時に説明させて頂き、最後に必ず疑問、質問の御時間を設けさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料を御持参して頂いており、その機会に意見や思いなどをお話して頂いています。又運営推進会議等においても意見、要望等を受けれるように対応させて頂いています。	家族の面会時や利用料の持参時等に利用者の日々の様子を伝え意見や要望を聞くようにしています。居室のほこりについてや外出をさせてほしいなどの意見が出され、念入りな掃除を実施したり、散歩の回数を増やす等、出された意見や要望は運営やサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、日々の悩みや、1か月の振り返りを行い、話し合いを行っております。	職員からの意見や提案は月1回の全体会議やユニット会議、日々の業務の中でも随時聞いています。会議に不参加の職員からは事前に意見を聞くようにしています。出された意見から休憩の取り方を工夫し業務効率の改善を図ったり、入浴時に使用する洗いタオルを利用者毎にわかるように置く等、意見を業務改善の向上等に活かしています。職員の様子を見て声を掛け随時面談の機会を設け意見や希望を聞くよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善手当により、かなり改善されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修はなかなか実施できていない。認知症実践者研修には順次応募しています。		

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会並びに管理者交流会を行い、他施設の実践状況を知る機会にもなっています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず本人と面談させて頂き、お話しを聞かせて頂くと同時に家族様や担当ケアマネ、看護師からも情報収集する様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り、家族様の様々な立場から、意見や要望を拝聴出来る様にし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のボランティア等協力を得て、音楽や習字、将棋等に参加して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族として捉え、孫であり、嫁であり、息子、娘であるという思いで関わっている。嬉しそうにスタッフのマッサージをして下さる利用者様もいらっしゃる。なごみ喫茶ではウェイトレスさんとなって活躍して下さっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に1回の日帰りバス旅行は沢山の家族様にも参加して頂いている。居酒屋レクの際には家族と食事し、ノンアルコールではあるが雰囲気を楽しんで頂きました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望を兼ねえられる様に出来る限り対応させて頂いています。共に入居されていたご主人の終末期には何度も面会に行っており、家族様の希望に寄り添い通夜、葬儀等全て参加して頂く事が出来ました。	親戚や友人等、馴染みの方の来訪時にはリビングや居室に案内し、お茶や椅子を準備しゆっくり過ごせるように配慮しています。職員の対応で自宅を見に行ったり、馴染みの商店街や飲食店等に出掛けています。家族と一緒に墓参りや冠婚葬祭に外出し、外出時には身支度や薬等の準備をする等、馴染みの人や場所との関係が継続するよう支援をしています。	

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入る事により、関係性を保つ事が多々あります。(外出時の車椅子押し、将棋の見守り等)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時も必要に応じて相談して頂き、他のサービス利用時には、情報提供などのフォローはしています。連携病院に長期入院になられた利用者様のお見舞いにも行かせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出、食事等に対する希望を皆さん共通して持っておられるので、気候のいい時期は出来るだけ対応しています。夏場は朝の涼しい時間帯にモーニングに出かけたりもしています。	入居時に自宅へ訪問して面談を行い生活歴や身体状況、趣味等を聞き、以前のケアマネジャーからも情報を得てシートにまとめて意向や思いの把握に繋げています。入居後は利用者との会話で思いや希望を聞いたり、意思疎通が困難な場合でも家族に確認したり、表情や様子等からも思いを汲み取り会議等で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族から十分な聞き取りを行い把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤帯から日勤帯、日勤帯から夜勤帯への申し送りで、その日の心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアで、1回/月のフロア会議を行い、日々の変化などを全スタッフが確認し、情報の共有に努め、計画作成するようにしています。	アセスメントを基に作成された介護計画は6か月毎の見直しを基本とし、3か月毎にモニタリングを行い、利用者の状態に変化があれば随時見直しをしています。計画の見直し時には再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開いて話し合い、事前に聞いた家族や看護師、医師の意見も反映し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録やフロア会議、申し送り等で得た情報を元に見直しをしています。		

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問美容等には馴染まない、あるいは対応出来ない方には望まれる対応に答えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい喫茶、おやじ喫茶等に参加。最近では出来ていないので再開していきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の連携医療機関について説明をし、今までの掛かりつけ医との選択をして頂き、本人、家族がどのような形で医療を受けたいかも随時確認しています。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明していますが、利用者全員が協力医に変更し月2回の往診を受けており、緊急時は24時間連絡することが可能です。週3回訪問看護師の来訪があり、必要があれば訪問看護師から協力医へ連絡してもらい指示を受けています。専門医への受診は家族や状況に応じて職員が対応し、受診結果は家族と共有しています。利用者の状態に応じて通院や往診による歯科の治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常の変化については直ぐに訪問看護師に伝え、指示を仰ぎ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、主治医、病棟看護師からも情報収集しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化に係わる指針の説明をさせて頂いています。	入居時に家族へ指針を基に重度化した際の事業所として対応可能なことを説明し同意をもらっています。これまでも看取りの経験があり、利用者の状態が重度化した際に再度家族の意向を確認し家族や医師、看護師、職員で話し合い、看取り支援の方針を決めて共有しています。訪問看護師と連携を図り家族からもできる限り協力を得て看取り支援を実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、急変時の対応についてのマニュアルを作成しています。		

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の消防署立ち合いによる訓練を通じて避難訓練を職員に伝えています。町会長、婦人部長、薬局等との緊急対応の依頼もお願いしています。	年2回消防署の立ち合いの下、昼夜想定で通報や避難誘導、初期消火の訓練を利用者にも参加してもらい実施しています。運営推進会議にて訓練の案内や報告を行い、町会長や近隣の薬局へ事業所で災害が発生した場合の協力を依頼しています。地域の防災訓練には利用者と共に参加し、カセットコンロや水、食料等を2~3日分備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人、その人の人柄に注視し個別の対応に努めています。	接遇やプライバシーについての外部研修を受講した職員が資料を基に全職員に伝達し周知しています。家庭的な雰囲気大切に、個々に応じた声掛けに留意し不適切な言葉かけがあれば職員同士でも注意をしています。排泄時は小声で声を掛け、申し送りの時には名前をイニシャルで話す等、羞恥心やプライバシーに配慮しています。希望があれば同性介助も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず本人に聞く事から始まり、自己決定出来る様に話しかける様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も、就寝時間も個別対応にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御持参して頂いた衣類等で好みを推測したり、家族にお話しを伺ったりして対応しています。衣類などは家族さんが購入される場合が多いかと思えます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、お手伝いをお願いしています。漬物担当をお願いした入居者様もおられます。イベント時には職員と入居者様が協力して準備したりもしています。	献立と材料は業者から事業所に届き、職員が作っています。利用者に材料を切ってもらったり下処理等できることに携わってもらい、職員も同じ食卓を囲み一緒に食事を摂っています。行事食の場合は利用者と一緒に食材の買い物に行き、季節の物や好みの物を作ったり、利用者の誕生日にケーキや大福等のおやつなどを手作りしています。時には外食に出掛けることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者に委託し、栄養バランス、カロリー管理を行っています。		

グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。必要に応じて訪問歯科、歯科医院を利用しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、オムツ使用の方でも日中はレリパツツでトイレでの排泄を支援しています。定期的なトイレ案内する事で失敗する事も減ってきた方もおられます。	トイレでの排泄を基本とし、個々に排泄記録を取りパターンを把握して、時間毎や利用者の様子も見ながら個々に応じた声掛けやトイレへの案内を実施しています。自立に向けた支援を継続し布の下着で過ごせるようになったり、肌の状態が改善した利用者もいます。利用者個々に応じた排泄支援の方法や排泄用品の種類を会議等で検討し、自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや納豆などを積極的に取り入れたり、オリーブオイルなど試し、腸内環境の改善に力を入れております。起床時の白湯をお勧めしたりもしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の曜日は決まっていますが、その日の本人の気分や体調などで随時変更したりもしています。	週2回を基本として入浴してもらっていますが、希望があれば回数を増やしたり毎日の入浴も可能です。入浴を嫌がられる場合は日時を変えたり、声を掛ける職員を変更する等の工夫をし無理なく入ってもらっています。温湯は1人ずつ交換し好みのシャンプーやリンスを持ち込んでもらったり、入浴剤を使用したり、柚子湯を実施する等、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを尊重しています。夜間の加湿に対し、濡れたバスタオルや洗面所に水を張ったりして対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品については、変更時、往診時あるいは疑問等がある場合には随時、薬剤師、看護師、主治医に確認している。又副作用、用法、用量についても指示、指導を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道、音楽会、外食、外出等色々な事に参加して頂きながら、その人自身の楽しみが見つけられる様に支援しています。又些細な事でもお手伝いをして頂いております。		



グループホームなごみ(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉に行きたいとの希望があり、近隣のスーパー銭湯に行き、入浴後に食事とお酒を楽しんで頂きました。人員の関係や天候もあり毎日の外出とまでは対応できていません。	全体や個別で初詣や桜の花見、イルミネーションを観に行く等季節毎に外出しています。他にも通天閣や博物館、水族館、イチゴ狩り等にも出掛けています。個別で外食や銭湯に行ったり、地域の病院が主催するバス旅行に家族も招いて利用者と共に参加する等、できるだけ外出の機会を作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人に管理して頂き、買い物等もして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族と連絡を取っておられる方もいらっしゃいます。ホームの電話もお手伝いし、随時利用して頂いていますが、会話が可能な方は家族様からお電話頂く事がほとんどです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りは各フロアで工夫して取り組んでいます。クリスマスツリーの飾りつけや七夕さんの短冊などスタッフと共に楽しんで頂いており、毎月の貼り絵は各フロアが持ち回りで、スタッフと入居者さまで協力して作成しております。	玄関に生花を置いたり、リビングにはひな祭りや七夕、クリスマスツリー等季節毎の飾りつけを行い季節を感じてもらっています。テーブルや椅子は利用者の状況に応じて配置し、ソファ等を置き1人になれるスペースも作っています。毎日換気や掃除を行い、温湿度計をチェックし、濡れタオルを置くことで保湿に配慮したり、利用者の体感を考慮しながら室温の管理を行い快適に過ごすことのできる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、各々定位置的な場所が決まっており、その場所が最も落ち着く場所になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物を持ってきて頂いております。茶碗や湯飲み、お箸等。ご主人が来訪され御一緒にCDを聞かれたりして過ごされている方もいらっしゃいます。	テレビや机、椅子、たんす、家族の写真、仏壇等を持ち込まれ家族と職員が相談しながら配置しています。編み物の道具やプロ野球のグッズ、書道の師範の免状等の趣味や大切にしている物を持参している利用者もいます。入居後は利用者の動線に配慮して配置を変更したり、掃除は利用者にも携わってもらいながら毎日行い快適に過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の動線については、注意して模様替え、家具の配置等に配慮しています。		